

石川県剣連だより

剣風春秋

第43号
一発行一
一般財団法人
石川県剣道連盟

〒920-0811
金沢市小坂町西57-3 KSハイツ205号室
TEL 076-253-0310 FAX 076-253-0341
E-mail:ishikawa-kendo@iaa.itkeeper.ne.jp
URL www/ishikawa-kendo.com

今年度の中間まとめ



副専務理事
広報委員長
近藤 繁彦

一 はじめに

明けましておめでとうございます。本年も会員の皆様のご健康と剣道への「ご精進を願っております。」さて、平成三十年度の事業の八割方を終えた現在、年度当初に設定した「重点事項」に沿って今年度の事業成果並びに課題を検証してまいりたいと思います。

二 重点事項

(一) 組織運営の充実

平成二十五年十一月にスタートした本連盟の「一般財団法人」への移行も早や六年目を迎えております。会員数も八五七名に増加しており、会員登録の拡大に各支部団体の「ご尽力をい

ただき、感謝申し上げます。今後とも新規会員の加入について努めてまいります。

(二) 武道必修化への対応

今年度も十月十日、「授業協力者の充実」を図り、三十余名の参加を得て講習会を開催しました。課題としてはまだまだ中学校で剣道授業の実施が進まないことです。さらに県教委・市町教委・学校長への働きかけに努めてまいります。

(三) 強化、全国大会の入賞

全国大会ベスト8位内入賞を見据えて、ジュニア強化、中体連強化、高体連強化、中高合同強化、一般強化並びに県外遠征など強化事業の充実を努めてまいりました。

(四) 福井国体

平成十五年静岡国体以来、十五年ぶりに四種別とも本国体に出場し、少年女子が5位の成績を挙げてくれました。谷本知事の臨席応援もあり、関係者一同勝利にほっとした次第です。

(五) 全国中学・高校

全中では男女団体に宇ノ気中がそ

特集記事

2頁「剣道八段に合格して」
小松市 岩脇 司
4・5頁「剣客往来インタビュ」
長田中学校校長 佐竹 康弘氏

ろつて出場し、予選突破まであと二歩でした。

インターハイでは男子金沢桜丘女子金沢が出場し、予選リーグで惜敗しました。特に男子個人で供田崇弘(桜丘)がベスト8、女子個人で中村結乃(金沢)が四回戦進出し、特筆すべき活躍をしました。

今後、二〇二二年のインターハイ開催に向けて「層の強化に努めてまいります。」

(四) 剣道技術の向上

(一) 審判技術

講習会(参加者八十余名)、大会を通じて適正な試合運営能力の向上に努め、成果が挙げられたと思っております。さらに「層の向上に努めてまいります。」

(二) 日本剣道形

毎月「形稽古会」を実施し、各種大会に公開演武として形を実施いたしました。成果が出つつあると思っております。さらに研鑽を積んでまいります。

(三) 剣道技術

毎月「高段者稽古会」を実施し高段者の技能向上に努めた結果、「中

央審査会」において八段三名(宇波、杉本、岩脇)七段八名、六段十二名という全国屈指の成果が挙げられました。

(五) 広報活動の推進

折々の情報を「剣連だより」、「ホームページ」を通じて提供してまいりました。さらに充実を努めてまいります。

(六) 女性剣士の充実

女性稽古会を継続的に実施し中央審査会で七段一名、六段二名が合格しました。さらに女性剣道の支援を進めてまいります。

(七) 財務

財団収入は会員八五七名による会費、審査会収入により支えられていますが、受審者の減少により今後ますますの収入減が見込まれます。経費節減が必至の状況であります。二〇二〇年全日本居合道大会、二〇二二年高校総体の開催も控えており、強化事業はじめ拡大が見込まれるものもあり、バランスよく会計執行に努めてまいります。

三 結びに

総括して、本年度県連事業は現在までのところ順調に推移し、大きな成果が得られたと思っております。今後とも緊張感をもって、一層の事業展開に努めてまいります。

会員各位のご理解、ご協力を得ながら、本年もよろしくお願いいたします。

特集

剣道八段に合格して



小松市
岩脇 司

一 はじめに

平成最後となる三十年秋の八段審査会において、私にとっての十二回目の挑戦で剣道八段に合格することができました。これもひとえにこれまでご指導いただいた山下和廣先生、末平佑二先生、安江正紀先生をはじめとする先生方、稽古の相手をしてくれた剣友の皆さんのおかげと、心底より御礼申し上げます。合格に際し、何か参考になることを書くようにと今回寄稿の機会をいただき、甚だ僭越ではありますが、稽古を通して学んだこと、感じていたことを記そうと思います。

二 稽古時間の確保について

部活動に所属し、それこそ「嫌でも」稽古をする機会を与えられていた学生の頃に比べて、仕事をしながら自らを鍛える稽古をしてい

くことは、本当に難しいことです。私も大学を卒業してすぐに中学校に赴任し、担任と部活動顧問に全力で取り組み、ついつい自分の稽古を後回しにしていました。

二十代の後半にさしかかったある日、久しぶりに小松市の協会稽古に参加した際に、田上雅治先生（現小松市剣道協会会長）に、「もう大学までの貯金はなくなっているぞ」とご指導いただきました。この一言で、これはなんとかしなければいけないと真剣に考えました。その結果導き出した答えは、「『空いた時間に稽古しよう』では絶対にできない。稽古の時間はスケジュールに組み込んでしまおう」ということでした。それ以来、市、県の稽古会にはできるだけ休まずに参加してきました。もちろん、社会人として、勤め人としていろいろな制約がありますが、私の場合は職場の上司、同僚に大変恵まれ、協力していただいていたので実践することができています。

三 八段を目指して

私が八段を本格的に意識したの

は、三十五歳で七段に合格した時でした。四十六歳で八段に合格するために、この十二年間をどう過ごせばよいかを考えました。三十代の五年間は、積極的にかかる稽古をすることを設定しました。この時期、東西対抗や国体に出させていただき、試合を中心に据えた稽古を行いました。そして四十歳から京都大会に出ると決め、初めて剣を交える剣士と立ち合い、範士の先生が手を上げる一本とはどのようなかを体感する時期と位置づけました。これについては、行政へ異動となり、最後まで続けることができませんでしたが、三年間の参加は大変効果的でした。最後の二年間は、どの稽古においても、誰と稽古しても、審査を意識して稽古する期間としました。

このように合目的に目標までの過程を具体的に設定することは大変有効で、結果的には四十六歳で合格とはいきませんでした。最初から四回の審査で三回二次を通過するなど、手応えを十分感じ取れるものでした。

四 稽古について

仕事の都合上、私の稽古の中心は、小松市での夜の協会稽古です。毎週水曜日と金曜日に行っています。毎週の都合等で集まれる人数が、仕事の都合等で集まれる人数は限られています。そのような中では子供から大人まで、誰と稽古する時も、自分の稽古になるようにしっかりとねらいを持って立ち合うようにしています。審査に向けては、岩脇律子（小松市剣道協会常任理事）との稽古は、お互いに常に立ち合いを意識したもので、本番を見据えて大変有意義でした。また、藤井勝司（同副理事長）、荒川真紀子（同理事）、黒本晋一（同会計）をはじめ、忙しい中道場に集まってくる剣友のおかげで、短時間でも内容のある稽古を続けることができました。

五 結びに

多くの方々に支えられて今日まで剣道が続けていくことができました。これから中身が伴うよう、しっかりと稽古していきたいと思っております。今後ともご指導よろしく願っています。ありがとうございました。

全剣連講習会（形）



事務局長
倉久廣

一 はじめに

本県剣道連盟は、5年前から県連主催・後援の大会で、「日本剣道形」の演武を実施してきています。今回は、全剣連から上垣功範士を講師として派遣していただき、剣道形をご指導いただきました。

二 講話

講習会には県内各地域・職域から八十名が参加しました。上垣講師は、最初の講話において、「形の起こりと制定の経緯」「剣道形の意義」「形に対する心得」について、お話しされました。

特に、吉野大峯千日回峰行を成し遂げられた塩沼亮潤師の「人生生涯小僧のころ」（致知出版社）を取り上げられ、その苦行を紹介されました。その後、山下会長はじめ、多くの会員がこの本を求め読みました。

中でも心に残ったことは、塩沼師が

苦行の日々を「体の調子が良いか悪いかではなく、悪いが最悪か。」と述べていることです。剣道修行にも通じることとして心に留め置きました。

三 実技

引き続き行われた実技では、五つの構え方、小太刀半身の構え、構えの解き方から始まり、太刀の形一本目から七本目・小太刀の形一本目から三本目までを要点を説明しつつ実技指導を受けました。

途中講師から「自分勝手に新日本剣道形を作らないように」と指摘があり、受講生から笑いが漏れましたが、最後まで気を抜かず講習会が終了しました。

四 指導稽古

また、講習会終了後には、上垣講師に指導稽古をいただき、八段受審予定者、中堅剣士が掛かりました。先生の厳しく軽妙な剣さばきに、一同感嘆した次第です。

五 結びに

上垣先生には一日、本県の剣士を相手に熱心にご指導賜り、厚く御礼申し上げ講習会報告とさせていただきます。

「ねりんピック2018 富山」に参加して



宝達志水町
宇波 信彦

一 はじめに

十一月四日、五日に富山県砺波市で行われた、ねりんピック剣道交流大会に石川県チームの中堅として出場させて頂きました。

二 試合内容

対戦結果は予選リーグで、長崎県及び堺市チームと対戦し、一勝一敗の成績で残念ながら決勝トーナメントに進出できませんでした。

私の対戦成績は二戦全敗の不甲斐ない結果で決勝トーナメントに進出できなかった責任を深く痛感しています。

三 大会について

今大会には四六都道府県と二十の政令都市から六九チームが参加して行われ、私とすれば三十数年ぶりの全国レベルの大会で、参加するまでの予想と異なり大変盛大な

規模で、しかも各チームの力の入れように驚くとともに自分自身の稽古不足を痛感しました。

また、大会に際し高齢者表彰が行われて最高齢の方が九十歳過ぎの方で、しかも試合にも出場されていることに大変驚愕しました。

四 高齢者表彰

高齢者表彰には、普段から県立武道館でゆーりん練習会のお世話をしていただいている中西有紀子さんが女性代表の一人として受賞されたことをご報告させていただきます。



五 結びに

剣道大会とは関係ありませんが、今後ねりんピックに参加される方にワンポイントアドバイスとして、総合開会式には折り畳みの簡易椅子を所持することをお勧めします。総合開会式では待ち時間などで蹲踞の状態で長時間待つことがあり、膝や腰に持病のある方はぜひ簡易椅子をお持ちください。

剣客往未

インタビュー



長田中学校校長
佐竹 康弘

本日は、4月より金沢市立長田中学校の校長として、学校運営にお忙しい日々を送られている佐竹先生にインタビューし、日常生活の中で剣道に支えられている側面などをお伺いしたいと思います。

問.. 剣道を始めたきっかけについてお聞かせください。

当時の美川町では、若手の熱血な先生方が少年剣道教室をご指導されていました。ちびっこ剣士達が稽古の行き帰りにカラコンと下駄の音を立てて歩く姿に興味を持ちました。小学校1年生の雪の降る日に、父に連れられ、鹿島正幸先生のご自宅に訪問しました。「途中でやめれんぞ」という言葉が脳裏に焼き付いています。

問.. 少年・中学・高校・学生時代の剣道の思い出はありますか。

少年時代は、幼なじみの居村先生、中村充先生、吉田先生らと共に、「正一本」の面打ちに加えて、体当たり、かかり稽古、地稽古等、元立の先生

方から体を張った指導をいただきました。鹿島先生が夜勤明けに朝稽古を行うこともあり、ランドセルと朝食のおにぎりを持って道場へ通った記憶があります。美川中へ進学すると、女子部員がどつと増え、総勢50名程いたと思います。県大会の女子の部が3人制でスタートした時期でした。男子と同様に荒稽古を重ねた女子が県大会2連覇を達成する中で、男子は私の痛い逆転負けのため準決勝で敗退しました。切り返し15分連続や打ち込み切り返し20回連続等、鹿島先生が県警や警視庁から仕入れてきたメニューが多かったようです。

高校時代も大変厳しい指導をいただきました。当時は小松、明峰、寺井、小松工業等の剣道部員が集結し、合同で強化する体制でした。小松軍団を束ねる林義也先生も相打ちを制する面技に重きをおいてご指導をいただきました。恐怖夏合宿の名物40分かかり稽古では、元立の先生方や大学の先輩方に夕飯が喉を通らないほどかわいがっていただきました。そんな中、二つ後輩である岩脇司先生の荒稽古に挑む姿は格別でした。岩脇選手の大活躍のおかげで、金大春季大会の決勝まで進み、居村選手と中村充選手が立ちはだかる桜丘高校と戦えたことがよい思い出です。

金沢大学では、同級生の中越顕治

先生等との出会いがあり、学生時代をとっても楽しく過ごしました。先輩にも後輩にも強い選手がたくさんおり、北信越では敵なしの時代でした。私はチームに大した貢献もできず、途中から化学の研究に逃げ込んでいたと思います。

問.. 民間会社の経験を経て教員を志した経緯をお聞かせください。

研究活動の魅力に惹かれ、大分石油化学コンビナートの昭和電工という総合化学会社に就職し、プラスチック製造用触媒の研究開発を担当しました。社内報の新人紹介で剣道のことを載せましたら、他の部署からすぐにお誘いの電話があり、故泥谷保夫範士の道場でお世話になることになりました。それからの5年間は、週に1回程度の稽古をお願いし、九州の実業団大会に何度か出場しました。大分市選手権や大分県別大会で上位に入賞するなど、試合者として充実した時期でした。しかし、バブル崩壊やレトリプトファン訴訟問題の影響で、会社内にリストラの嵐が吹き始めました。企業の研究者として先行きを案じていた時に、泥谷先生から「お前が教員だったらなあ」と勧められ、自然科学と剣道のおもしろさを子どもたちに伝えたいと思い、教員の道を模索し始めました。この一言がなかったら人生

の方向転換はなかったと思います。

問.. 教員になってからの中学校剣道部の指導において苦労したことや思い出になることは何でしょうか。

初任校では、職員会議で反対が多い中で剣道部をつくって頂きました。応援してくれた先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。次の赴任校は母校である美川中です。指導に力が入りすぎて選手や保護者の方々に迷惑をかけることが多々ありました。それでも地域の方々や支援を頂きながら全国大会等に出場する選手が育ったことや社会人になつてからも地元で元々の剣道大会の運営等を支えてくれる後輩がいることに責任の1つは果たせたかなという思いです。

問.. 中学生の指導とご自身の剣道修行の両立についてお聞かせください。

北星中に赴任すると同時に七段への挑戦が始まりました。稽古は専ら辰口武道館山下道場をお願いしました。山下和廣先生に合気の稽古をたくさん頂戴し、気を練っていただいたことが大きな財産となっています。また、基本を大切にされた様々な技の稽古、剣道形の稽古、礼法や剣道人としての立ち振る舞いを含め、剣道の本質を教示していただきました。中学生への指導も自身がここで学んだことが中心です。

中学生により伝わりやすい演示や解説の方法を、理科の授業を考える手法を応用して工夫しました。剣道部の活動が充実し、大会でも成果が現れた時期に七段の合格をいただきました。

問.. 現在、校長として学校運営で心がけていることは何でしょうか。

教育目標に「和を大切にする生徒の育成」「目標を持って主体的に学び行動する生徒の育成」を掲げて取り組んでいます。組織として成果を高めていくためには、まず、目標を学校全体で納得・共有することです。そして、目標を意識しながら共通実践を全職員で進めていくことです。

生徒に対しては、全校集会などの機会を使って、様々な活動に対して「仲間と協力する」「目標を持って努力すること」を意識して取り組み、何ができたかを振り返り、次につなげていくことを訴えています。このようなサイクルを生徒自身や学校組織自身が身に付けることで、それぞれが自発的に成長していくものと確信しています。

また、地域からの期待を受け、どのような取り組みに重点をおいて継続・改善していくかによって伝統や校風が創られていきます。校長の大きな役割は、地域のニーズや社会情勢の変化に敏感になりながら方針を決定すること、前段に述べたことを確実に先生方

の指導に反映させ、結果を検証していくことだと考えています。

問.. 7月にロシアのイルクーツク訪問団を迎えた交流事業において、剣道体験を実施したことが話題になりました。その様子などを紹介してください。

6月に金沢市教委から交流事業受け入れのオファーがあり、快く引き受けました。イルクーツク市は金沢市の提携姉妹都市であり、今年度は中学生15名を含む訪問団が来校しました。剣道体験では、まず竹刀を日本刀とみなして取り扱うことや打突部位について説明します。次に剣道部員同士の試技を見せると、打突の音や大きな発声にびっくりして尻込みする中学生がいました。その後、竹刀をわたり、剣道部員と私が元立となり、面・小手・胴の順で打たせてみます。初めはおどおどした様子でちょんちょんと当てるだけでしたが、回数を重ねるごとに打突に力が加わり、声も大きくなり輝かせ、一生懸命になっている様子が見てとれます。

短時間に外国人をこれほど魅了する日本の伝統文化は、剣道以外にないのではと感じます。体験後の感想より、数日間の体験プログラムの中で剣道が最も印象的であったという声が多



く、日本のおみやげには忍者グッズが定番であることも分かりました。交流の様子はNHKで放映していただき、地域の方々にも喜んでもらえました。

問.. 剣道をやってきてよかったことや支えになったことをお聞かせください。

剣道には「人間形成」という素晴らしい理念があり、修行の心得は「正しく学び、自己修養に努め、社会と平和に寄与する」と要約して理解しています。このことが自分の生き方の軸になっていることは間違いありません。

中学生には「剣道は難しいが正しい剣道を目指して継続すれば、日常の中でも正しいことを求め行動する態度が

養われる。これで自然と立派な人間に近づいていく」「目標に向かって努力し、自己実現できたときに社会貢献にもつながっていることが理想の生き方」と話をします。教育界に限らず、各界においても「人間形成」とはこのようなことだろうと思います。

問.. 剣道と仕事の両立を目指す若い世代にアドバイスをお願いします。

まず周囲から信頼を得られるだけの仕事を頑張ってください。山下先生に「出る杭は打たれる。打たれたときにさらにとび出るくらいの気持ちが大切だ」とお話をいただいたことがあります。まさにそうだと思います。職場において信念を持って突出するくらいに仕事に取り組めば、周囲が認め、剣道を応援してくれると思います。そして、家族にも応援してもらえようように普段のコミュニケーションが大切です。私にはこれが欠如していたと反省しています。これからはみなさんと一緒にさらなる両立を目指してがんばりたいと思います。

お忙しい中、インタビューをまことにありがとうございました。今後ともご健康に留意され、層のご活躍を祈念いたします。

第二回北陸実業団 剣道大会(報告)



北陸実業団剣道連盟
事務局長
吉村 嘉綱

十二月二十五日、いしかわ総合スポーツセンターで北陸三県から三十二チームが参加して、第二回北陸実業団剣道大会(団体戦)を開催しました。

大会は各チーム二試合の予選を行い、上位十六チームで決勝トーナメント戦を行いました。

試合では予選から白熱した試合が続き、決勝トーナメントでも代表決定戦が相次ぐなど、各チームの実力が伯仲していました。



決勝は、NTN・A(石川)対北陸総合警備保障(石川)となり、一対二で代表戦に纏れ込み、最後は、NTN塩木選手の諸手突きが決まり、初優勝を遂げました。また、

機械・電気設備業(石川)と野村證券(福井)が第三位に入賞した。ところで、大会に出場していたアイ・オー・データ機器のご協力で今大会運営のデジタル化が試みられた。主な内容は次の通り。

- ①会場入口にサインネジの設置
- ②結果の自動集約および会場のディスプレイへ適時掲示
- ③Facebookで試合進行の発信



お蔭で、大会の進行が参加者や観覧者へ適時に掲示でき、好評を得ました。また、大会運営もスムーズに行えました。ご協力ありがとうございました。

最後に、石川県剣道連盟の絶大なご支援とご指導に深く感謝を申し上げます。



スポーツ少年団県大会



スポ少担当
山本 重之

十二月二日 県内のスポーツ少年団に加入する小中学生が一堂に会し、第四十七回石川県スポーツ少年団剣道交流大会が、いしかわ総合スポーツセンターで開催されました。当日は、山下和廣石川県剣道連盟会長にご臨席をいただき、小学生は団体戦と個人戦、中学生は個人戦で熱い戦いを繰り上げました。

本大会の団体戦は先鋒・小学四年生以下男女、次鋒・小学五六年生女子、中堅・小学五六年生男子、副将・小学五六年生女子、大将小学五六年生男子でチーム編成が区分されており、まさにそのチームの総合力を競う戦いとなっています。

四十四チームが白熱した戦いを繰り上げ、決勝戦は森本少年剣道と、宇ノ気剣道の伝統の強豪チーム同士の戦いとなり、一進二退の勝負の中、森本少年剣道が大將戦を制し、六年ぶり四度目の優勝を果たしま

した。お互い堂々とした戦いで、まさに県下最高レベルの戦いでした。

個人戦は、小学四年男子 毛利久佳(鹿島剣道)、五年男子 佐味優誠(鹿島剣道)、六年男子 森 健真(宇ノ気剣道)、小学生女子 荒川みさと(小松桜木剣正会)がそれぞれ優勝し、中学生は、男子 松本恭典(宝達志水少年剣道)、女子 横山 雅(大崎剣道)が優勝しました。

いずれの選手の試合からも、充実した日頃の稽古をうかがい知ることができ、指導者の子どもたちにかける思いを感じることができました。

今年の大会は、攻めの第一義である「気合い」の充実した選手が、それぞれ頂点を極めていました。今後もこの気の継続がこれからの石川県の剣道を創り、支えて行くことを確信しました。

なお、団体戦優勝チームと中学生の優勝者は三月に山口県で行われる全国大会に出場します。

剣道七段に合格して



県立武道館館長
山辺 哲夫

十一月の名古屋審査会四回目の受審にてお陰様で合格することができました。

一 剣道の再開

四十代半ばから仕事の都合で十分な稽古もできない中、何とか剣道との縁だけは持ち続けたいと願い、定年退職を契機に「求める気持ちだけは生涯忘れまい」と県剣連の稽古会に参加しました。久しくお世話になった先生方に懸かる中で忘れかけていた「学ぶ心」を呼び覚ますことができました。それは目標を持つことの大切さや生きがいを改めて感じた充実の時でもありました。

二 七段への道のり

① 高段者稽古会（土曜日）

立会における作法の基礎から山下会長、末平範士より教えていただき、改善に取り組みました。

目から鱗が落ちる思いでした。

② 日本剣道形稽古会（土曜日）

剣道講習会資料に記載されている「日本剣道形」の一言一句を忠実に解説・指導していただき、形審査会では平常心で臨めました。

③ 稽古

月・水・金は県立武道館の武道教室で健康づくりや昇段を目指す方々の修得に努めました。土曜日は県剣連の稽古会で先生方に懸かり、助言や励ましを沢山いただきました。また、月一回日曜日に集うゆるりんピック稽古会では、諸先輩方から気迫の一振りをいただきました。

三 今後の稽古目標

次代を担う子どもたちに文化として正しい剣道を伝承することが責務と考えています。正しい理論と技能の普及に向け、より一層の修練に励みたいと思います。

四 結びに

七段挑戦へ背中を押していただいた数々の先生方のお陰と深く感謝しております。剣道を通しての人の出会い、その恩の有難さを感じています。

剣道六段に合格して



白山市
堀内 宏子

十一月に名古屋で行われました審査会に合格させて頂きました。

私が剣道と出会ったのは小学生の時、学年全員が竹刀を持たされ素振りを教えていただいたのが初めて

した。何度も剣道を離れながらも再々度出会ったのは、現在の会社勤め、上司が会社の剣道部の部長をされており、再開を勧められたのがきっかけです。

昇段審査に向けては地元の稽古会参加のほか県立武道館の火曜日の稽古会、北陸電力の稽古会等に参加させていただき、高段者の先生方から指導をいただいております。会社から県立武道館までは、平日のラッシュ時は1時間以上かかり、仕事が終わってからということもあり、睡眠と闘うことも大変です。

稽古時、自分では一生懸命なのですが、思いのほか体が動かなく、年齢と共に体力の無さを痛感してお

りました。県外遠征に連れて行っていただいた折は、県外の高段者の女性との稽古の中で自信をつけさせていただきました。

審査では、二回とも大きな男性が相手でしたが、基本とおりに姿勢正しく一足二刀で大きく振りかぶることを心がけました。形の審査も普段の稽古時何回でも稽古したおかげで緊張することなく行うことができました。

現在は千代野剣道スポーツ少年団の指導者として地元の子供たちに剣道を教えていますが、初心者の子供たちには靴のはきそろえ、挨拶、礼儀を大切にすることを基本に指導しています。

白山市でも女性で剣道を再開される方が昇段審査を受けられることも多くなり、私の昇段が女性剣士の励みになれば幸いです。高齢まで剣道をされている女性は少ないのですが、健康のためにもまだまだ続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、ご指導いただきました先生方、稽古会にお誘いくださった岩脇律子先生、一緒に稽古していただきました皆さんに感謝申し上げます。

【全国大会等記録】(7~12月)

◎全日本都道府県対抗女子剣道大会

7月14日 日本武道館
1回戦 石川 0-③ 愛知

◎第53回全国道場少年剣道大会

7月24~25日 日本武道館
◇小学生第10試合場2位 新化館
◇中学生第8試合場2位 新化館

◎第60回全国教職員剣道大会

8月3日 岸和田市総合体育館
◇団体1回戦 石川0-①秋田個人
▽男子1回戦三嶋一メ高橋(山形)
▽女子3回戦澤田有一メ宮内(愛知)

◎全国高校総体(インターハイ)

8月9~12日 三重県営サンアリーナ
◇男子団体予選リーグ金沢桜丘2位
金沢桜丘③-①龍谷平安(京都)
金沢桜丘2-②東福岡(福岡)
◇女子団体予選リーグ金沢2位
金沢 2引分2 磐田西(静岡)
金沢 ②-① 奈良大附(奈良)

◇女子個人

1回戦 横町一メ渡辺(岡山商大附)
4回戦 中村一ド諸岡(中村学園)

◎第48回全国中学校剣道大会

8月22~24日 岡山市総合体育館
◇男子団体予選リーグ宇ノ気3位
宇ノ気1引分1郡山ザベリオ(福島)
宇ノ気 0-③ 豊中十六(大阪)

◇女子団体予選リーグ宇ノ気2位
宇ノ気 ③-① 大川(香川)

宇ノ気 1-③ 幕張本郷(千葉)

◇男子個人

2回戦 亀井一メ江口(佐賀)
1回戦 指本一メ竹村(静岡)

◇女子個人

2回戦 藤井一メ松本(徳島)
3回戦 横山一メ生出(大阪)

◎第39回北信越国体剣道大会

8月25日 新潟鳥屋野体育館
◇成年女子 石川1位 2勝1敗
◇少年男子 石川1位 2勝1敗
◇少年女子 石川1位 3勝

◎第64回全日本東西対抗剣道大会

9月2日 仙台市青葉体育館
◇30将 星野 ドー 安部(香川)

◎第13回全日本都道府県対抗(少年)

9月16日 大阪舞洲アリーナ
◇小学生決勝トーナメント1回戦
石川0-②大阪A
◇中学生予選リーグ 敗退

◎第57回全日本女子選手権大会

9月24日 長野ホワイトリング
1回戦 澤田真衣トー 服部(鳥根)
2回戦 澤田 一メ山本(大阪)

◎第73回国民体育大会

9月30~10月2日 福井県武道館
◇少年男子 石川 2-③ 岡山
1回戦 石川 5位入賞
◇少年女子 石川 ③-② 鳥根
1回戦 石川 0-③ 長崎
2回戦 石川 0-③ 長崎
◇成年男子 石川 2-③ 秋田
2回戦 石川 2-③ 秋田

◇成年女子
1回戦 石川 1-② 愛媛

◎第53回全日本居合道大会

10月26日 茨城県武道館
▽五段1回戦二本0-③藤川(大分)
▽六段1回戦中村③-①小賀(和歌山)
2回戦中村0-③圓口(東京)
▽七段2回戦作田0-③関(茨城)

◎第66回全日本剣道選手権大会

11月3日 日本武道館
▽1回戦 後藤 一メ西村(熊本)

◎第30回全国健康福祉祭剣道

11月4~5日 富山県西部体育館
▽予選リーグ 3位
石川 2-③ 長崎
石川 ①-① 堺市
▽高齢者賞(女子) 中西有紀子

中央審査会合格者

◇剣道

▽八段 岩脇 司

▽七段 安田 佳史 篠井 誠史
蓮田 博人 佐藤 勝彦
中村 亮 山辺 哲夫

▽六段 三輪 竜大 宮城島 優
米澤 直之 山越 徹
山本 剛 堀内 宏子

▽教士 星野 敏之 松原 弘幸
向井 守男 堀内 龍一
小川美貴男

◇居合道 角 紀一郎
▽六段 山口 春夫

◇居合道

▽六段 角 紀一郎
山口 春夫

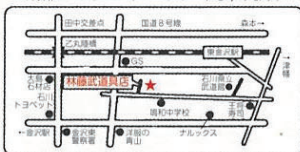
林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
HP http://www.rindoubudougu.jp/
E-mail:budou@chive.ocn.ne.jp

●定休日/月曜日

【営業品目】

剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(剣輪・ゼッケン・ネームプリントも承ります)



武道具の
ハシメト

金沢市上荒屋7丁目67 TEL249-8233
〒921-8065 FAX249-9139